

## タイトル

お寺インターンシップ

## 応募者

中田 美麗さん（大阪府、学生）

## アイデアについて

### ① アイデアのタイトル

お寺インターンシップ

### ② アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字以内でお書き下さい。）

お寺をインターンシップ先に利用する。

心を病む若者が増える中、お寺や高齢者、子供たちと触れ合い今一度自分を見つめ直す。

そして生きる意味や感謝の気持ちを思い直し、人としての礎を作ることを目的とする。

### ③ アイデアの内容（できるだけ具体的にお願い致します。）

添付参照

## 「お寺インターンシップ」

現在、都会では心を病ましている人々が増えている。特に、人と接することに疲れてしまふ、自分の存在価値を感じられずに家に塞ぎ込みがちになるという、いわゆる心が陰の状態になっている若者も少なくない。これは最悪の結果、自ら命を絶つという悲しい現実

に結びついていることも確かである。

そこで、本来大学生が社会に出る前に社会人としての基礎を学ぶために研修生として企業に無償で一定期間、就業するインターンシップをという仕組みをお寺に取り込んでみてはいかがだろうか。

このプロジェクトは、「都会から過疎化した地域＝ふと立ち止まって自分を見直せる場所」をテーマに悩める若者がお寺に数日間滞在しお寺で生活やお手伝いするものである。その中で様々な人とのふれあい、巡りあわせを通して陰の状態にある心を陽に変えるキッカケを与える。またこれには、お寺での生活を通し、仏種に触れることで自分を見つめ直し、心の内から変化しリスタートしてもらえようようなプログラムになっている。では、ふれあう人々を三人柱にして詳しく説明しよう。

### ① お寺の住職と

お寺では数日間の滞在をしてもらうのだが、そこで一番ふれあう機会が多いのはお寺の住職さんであろう。日々の悩み、生きる意味、道徳にふれあうのはもちろん、そのお寺ごとの住職さんにも生きてきただけのエピソードがある。短い間ではあるが、共に生活することで食事への感謝、明日お日様が上り朝を迎えることが出来る幸せ、こういった小さな感謝や気づきから、やがて生きていくことへの感謝に気付いてもらいたい。その中で住職さんの価値観に触れる機会が若者の未来への希望につながるとなおよい。

### ② 地域の高齢者と

二つ目は、地域のご老人とふれあえる機会を設ける。これにより、人生の大先輩としての経験談や、古き良き風習、先人の知恵といったものを伝承してもらうことで、日本人としてのアイデンティティを見直せる。これにより、文化や歴史の継承にもつながり、若者の将来の可能性も広がるのではないかな。

一方、高齢者の方にもメリットが見いだせる。特に過疎化した地域に住む高齢者は、子供の独立や、友人との死別から不安や心細さに苛まれている。そこから孤独を感じたり、最悪の場合孤独死されるケースもある。お寺に、若者を高齢者がふれあえる(お茶会を開いて話をする)機会を設けることで外に出て活動する機会を提供する。こういったことにより、高齢者の陰の部分

### ③ 地域の小学生と

最後に地域の小学生にもふれあえる機会を設ける。夕方やお昼の空いた時間にふれあってもらえるのだが、これにより、過去の自分を思いだし、見つめ直してもらおう。いま、自分が立っているこの場所までには、必ずその人のストーリー(=過去)がある。過去の自分に気付けないまま、未来への自分へのバトンタッチが出来るはずがない。小学生の元気・活力を分けてもらおうと共に、あの頃に帰って何かに全力で楽しむ気持ちを思い出すことのできる機会も設けたい。

そして、このプログラムには小学生・お寺双方にメリットがある。幼少期のお寺体験は、小さいころからのお寺の認知につながる。檀家離れなどの問題も抱える現代のお寺からすると、小さいころから親しみを覚えてもらうことはメリットである。また子供は、お寺を寺子屋にして、勉強だけではなく道徳も学ぶことが出来る。もちろん、寺子屋の先生は若者であり、高齢者でもある。

このように、お寺・若者・高齢者・子供たちといった四方よしのプログラムなのである。

そして、お寺に人が集まると、そこには一つのコミュニティが生まれる。お寺の住職さんも色々な付き合いから様々な人とめぐりあってきたことだろう。そこから何か困ったことがあれば、お寺に駆け込み専門機関の紹介をしてもらえようようなコンサルタントとしての顔も持ち合わせるといいと考えている。例えば、軽い怪我であれば近くの病院ですむかもしれないが、重い命に関わる病気にかかってしまった場合、体だけではなく心も弱ってしまう。そして、まずどうすれば良いのかわからなくなるのだ。そこでお寺に相談にのってもらい、広い顔をもつお寺がその人に合ったカウンセリング機関を紹介するという窓口のような仕組みを考えている。これはお寺インターンシップにも影響がある。何故なら、人の縁の繋がりが一人の深刻な悩みを和らげることの出来る可能性を目の当たりにするのだから。

最初はSNSの広報により悩める若者の心に訴えていき参加を募ろうと考える。しかしこのお寺インターンシップに参加することで「新しい自分でリスタート、再出発ができる」。これを体験したならば、もちろん口コミも広まるだろう。メディアも注目するかもしれない。お寺本来の教えである、「結縁」を広めることが地域の活性化につながっていくのだ。

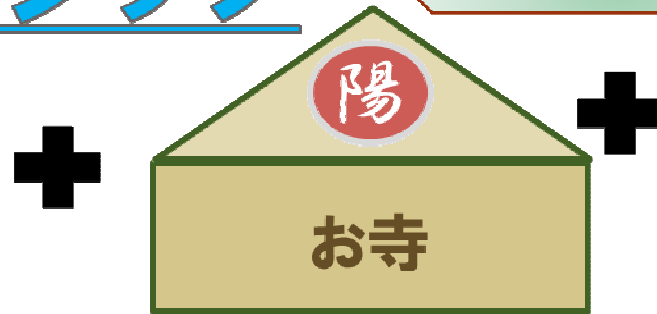
お寺インターンシップにより日々の中にある、人との出会い、人のぬくもり、生きているからこそ出会える感動や癒し。一度立ち止まって我を見つめ直せる環境、そして一人ではないと見守ってもらえる結縁を伝えるこのプログラム。

お寺という陽の働きが、若者の心の闇(病み)の部分である陰を照らしていく部分に注目したい。

# お寺インターンシップ

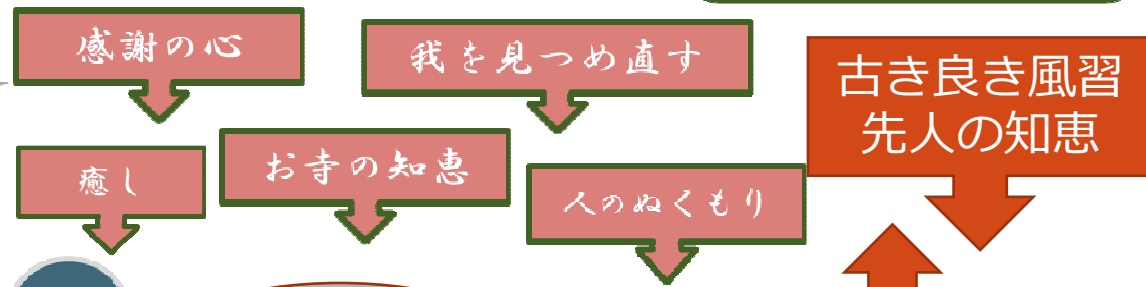
過疎化した地域

インターンシップとは  
学生が一定期間企業などの中で  
研修生として無償で働き、その代  
わりに社会人の基礎を就業体験を  
通して学べる制度



**高齢者**  
・孤独感  
・話がしたい  
・子供の独立、友人との死別  
⇒不安や心細さ

结缘



## お寺でインターンシップ!

学ぶことは

\*お寺という「人の基地」とする所で  
「生きる」「感謝の気持ち」  
を思い直す機会を得る。

\*都会から離れ、一度立ち止まり心  
を見つめ直すと共に心のふるさとを  
みつける。

塞ぎ込み、病んでいる陰の心の  
状態から陽の考え方に気付ける  
⇒人としての礎をつくる

**陰**  
**悩める若者**  
・心が病んでいる人が増える  
(日常の悩み・人間関係)  
・心のよりどころを求める  
・自分の存在価値、意義に迷う  
・生きる意味がわからなくなる  
⇒自殺者が出る

現代の知恵  
元気・活気 (若年層)

**小学生  
(地元地域の)**  
幼少期のお寺体験  
⇒親しみを覚える  
⇒道徳を学ぶ  
⇒活気を与える

仏種に触れる